◆　砂場における保育者の役割　◆
～関わりの大切さと難しさ～

砂場での遊びは、想像性や創造性、社会性、科学性などのさまざまな発達を子どもたちに促すといわれています。砂場で遊ぶ子どもたちは、自ら砂や土、水に関わって遊び出すことができるために、保育者は「子どもは遊べている」と思いやすい場所になっているようです。実は、研究会での動画でも保育者が共にいる映像は多いとは言えませんでした。

しかし、他の遊びと同様に、保育者には子どもが遊びを深めたり広げたりするような環境構成や関わりが大切になります。研究会で語り合った内容から、砂場で生み出される遊びだからこそ、保育者が子どもと共に居ることの大切さと難しさが見えてきました。

見いだされた保育者の役割

- 子どもが安心できる居場所を作る
- 楽しい雰囲気や遊びの流れを創り出す
- 保育者がモデルとなって遊び方を示す
- イメージの共有等で子ども同士をつなぐ
- 遊びの道具や素材を用意する

「先生は砂を積み上げたかったけれど、３歳児に水をかけられて壊されてしまった。子どもの遊びの流れに沿うにはどうしよう」

A:水で壊されると遊べないというのは、大人の見方かも
B:子どもはただ崩れていくのが楽しい。目の前のことに反応してる
C:場が自由感に満ち溢れている。徐々に秩序を獲得していくはず
D:３歳で、みんなで好きなことをやってて、嫌じゃないって大事

「水を流して遊んでいるが、流れを楽しむ子と溜めたい子が混在。異年齢で、一人一人のやりたい思いをどう受け止め、つなごうか」

A:流れること、流すこと、流れる先を楽しみにしている子もいるが、先生は何を捉えればいいのか難しいだろうな
B:それぞれの子が楽しんでいることの解釈は多様
C:今起こっている遊びをつなげたい思いがあるのは間違いではない

「子どもの遊びに大人が加わることで、遊びが面白くもなるが、場を崩すような動きの子どもをついつい制御してしまう」

A:試行錯誤自体を楽しんでいても、砂場で大人が絡むと目的になる
B:具体的な砂、水、樋があったら話さなくていいけど、イメージが共有できないと言葉が必要？保育者がいると言葉が増える？
C:2人の先生がいることで、一方の援助の考え方に偏らず、子どものやりたいことが保たれていたのかも

研究会では、保育者はどちらかというと積極的な関わりをしない入り方、あえて子どもの遊びを見守りながらどう関わるかが語られてきました。それは保育者の存在を否定するものではなく、子どもの思いを聴く、子どもの思いに共鳴する者として居ることではないでしょうか。

すごい！深い！面白い！「砂場」

保育環境研究部会

発刊に寄せて

このたび、保育環境研究部会のメンバが自園の園庭の環境の構成と再構成に関して考えていること、そしてビデオ検討会で議論してきたことの一部をリーフレットにまとめることとなりました。保育環境研究部会では、その前身である砂場研究チームから目的を引き継ぎ、

①保育環境の重要性（近隣の公園ではなく、園の敷地内に園庭があることの価値）

②学齢5歳児が幼児教育の枠で育つ意味（小学校教育の最低学年ではなく）

の2点を明らかにし、幼児教育・保育施設や家庭、小学校、広くは社会全体に発信することを目指してきました。

ただ、新興感染症の流行など種々の要因により、対面の研究会の実施や全国各地の園を訪問しての調査は残念ながらごく限定的にしか実施できず、想定していた活動は展開できませんでした。

そうした制約下において、北は北海道から西は広島まで、日本全国に散らばるメンバとオンラインビデオ検討会の開催を継続し、それぞれの視点や考えを出しながら、保育環境や子どもの姿・育ち、保育者の関わり・機能について議論を重ねてきました。保育環境研究部会のメンバがすごい! 深い! 面白い! と味わった、自由で多様で混ざり合う、モノ・遊び・人・集団・言葉について、読み手のみなさまになにかしら伝わり、それぞれの園の保育環境を見直す契機になれば幸いです。

2023年 3月　保育環境研究部会　部会長　平林 祥

保育環境研究部会の前身である砂場研究チームの目的や経緯、背景については、2019年8月に発行した「砂場研究　中間報告書」をご参照ください。

砂場研究　中間報告書

◆ 座談会 ～砂場の魅力・面白さ～◆

保育環境としての砂場について、砂場についてそれぞれ考えたことを話し合いました。

C: 言葉によらないコミュニケーションが生まれること、人とのやり取りを楽しむというより砂を介してやりとりすることに意味があるのが面白いと思う。保育者が下手に介入すると遊びをだめにしてしまうけれど、介入しなくてもだめにしてしまうのが砂場。どこに何を出すか、保育者が介入しないと得られない、どのように介入するかのいい塩梅がとても難しい場所だと思う。

B: コミュニケーションしないで上手く遊んでいることもあるし、「お前それやめろよ」って言葉で意思表示することもあるし、それをバランスよくとっているのが砂場かもしれない。あと、年齢でコミュニケーションの仕方が変わるのかも。

A: 以前は、あまり砂場について考えたことがなかったが、砂場というものを皆さんと継続して考えていく中で子どもにとってとても安心できる場だと思うようになった。枠がある砂場が情緒を安定させる。あと自分の思い、心の中にあることを表現できる場だったり、誰かの真似をしたくなるような場所だと思う。砂場の中にいると、隣で遊んでいる子の遊びに注目して、真似したくなる。

B: 砂場について考える前は、3歳にとって万能な環境だと思い込んでいた。例えば、泣いている子がいたら砂場に連れて行けば泣き止むとか、先生が何かを要しなくてもだれでも遊べるみたいな。でも、5歳の遊びを見ていくと、いろいろ考えたり子ども同士の複雑な関わりもあった。子どもの様子をよく見て聞こえる声を拾ってみないと、何がやりたいのか、何をしているのかわからない場だと思った。

C: 公園の砂場はなぜあんなに盛り上がらないのだろう。幼稚園の砂場は面白い遊びが生まれるのに、公園の砂場はあんなに面白くないんだろう。園であれば、多様な道具を出せることや水を使えること、異年齢の関わりも遊びの面白さを生むのかもしれない。

D: 砂場はどこの園にもあるのでどこでもそんなに変わらないと思っていたけれど、いろんな園の砂場を見ると結構多様だということに驚いた。砂場の中ではいろんな遊びが共存できるし、道具によっても変わる。そういう意味で、砂場を園としてどうとらえるかが、砂場の色になるし園の色にもなる。

認定こども園
愛泉幼稚園
［栃木県下野市］

5歳児	47 人
4歳児	54 人
3歳児	47 人
2歳児	19 人
1歳児	19 人
0歳児	7 人

光明幼稚園
［京都府京都市］

年長児	29 人
年中児	34 人
年少児	24 人
満3歳児	16 人

かえで幼稚園
［広島県廿日市市］

年長児	58 人
年中児	56 人
年少児	54 人
満3歳児	14 人

認定こども園
札幌ゆたか幼稚園
［北海道札幌市］

5歳児	52 人
4歳児	52 人
3歳児	56 人
2歳児	18 人
1歳児	5 人

すごい! 深い! 面白い! 「砂場」　保育環境研究部会　2023年3月31日発行

編集・発行
一般財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　(理事長　安家 周一)
保育環境研究部会（部会長　平林 祥）

この冊子の内容を許可なく転載・流用することはお断りいたします。

一般財団法人　全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・事務室
〒102-0073　東京都千代田区九段北4-2-25　私学会館別館
TEL: 03-6272-9232　FAX: 03-6272-8363　E-MAIL: info@youchien-kikou.com

保育環境研究部会
（敬称略・あいうえお順）

小倉　庸寛（栃木・愛泉幼稚園）
田中　康雄（京都・光明幼稚園）
中橋　美穂（大阪・大阪教育大学）
中丸　創　（広島・かえで幼稚園）
平林　祥　（大阪・ひかり幼稚園）
丸谷　雄輔（北海道・札幌ゆたか幼稚園）
箕輪　潤子（東京・武蔵野大学）

◆　砂場における水　◆
～砂場での遊びに変化を生む素材～

砂場での遊びは、砂だけで展開されることは少なく、道具・水・砂場の枠・人（仲間・保育者）・自然物など、砂以外の様々なものの存在が遊びを豊かにしてくれます。

水を使うと、砂場での遊びに変化が生まれます。水が混ざることで砂の触感や色が変化したり、砂に掘った穴や水路に水を流すことで水の流れができて遊びが拡がったりします。砂と水は親和性が高く、かつ遊び方も様々なようです。砂は形などを変える性質（可変性）がありますが、形を保つ性質（可塑性）もあるため、積む・掘る、型に入れる・握るなどにより形を作る面白さがあります。一方、水は砂とは異なり、水の量や流れをどうコントロールしていくかが遊びの面白さにつながります。

見出された砂場での遊びと水の関係性

- 水が流れる・溜まるなどにより、遊びに変化を与える
- 勢いのある水と留まる水で遊びのペースが異なる
- 道具の種類により水のコントロールの仕方が変わる
- 水場との距離・水の運び方による役割分担の違い

「掘るための砂場」と「流すための水」

水捌けがよく砂が水をよく吸うので、子どもたちが予想するようには水が溜まって流れていかない。水がたまらないことに気づいた子が、水を運ぶ役割を引き受け始める。

C：水場と砂場の距離と配置によって、水の欲しさ・貴重さと汲みに行くのめんどくささのバランス感覚が絶妙に働いている

B：子どもによって、水の使い方や運び方の違いが感じられる。

「水を流す場としての砂場」と「流すための水」

ホースや塩ビ管を組み合わせ、水をどのように流したいのか流れを作るこだわりを感じている。

D：速いスピードで水が流れた時と、そのあと水を止めた時で遊び方が違う。水の量や速さを調節することで遊びが変わるのは面白い

G：水を流す子と流れを見ている子と、水の流れにより生まれる泡をカップですくう子など、水とそれぞれの関わりをしている。

「砂を動かす動力としての水」

水場からじゃばらホースを引き、砂で作った山の中に埋め込む。ポンプを押すと水が埋め込んだ砂を勢いよく押し出す。水に砂を崩してもらって動く楽しさを味わっている。

A：水がでてきたのを止めたり固めてみたり、掘ってみてまた出るなど予測をしながら楽しむことも子どもにとっては楽しみ

B：水が溢れれば子どもの声が大きくなり、水が収まれば小さくなる

「コミュニケーションのための水と砂場」

ホースの先を手で押さえたり離したりすることで、水が飛び出したり止まったりする。水を出すのか止めるのかについて声が飛び交う。

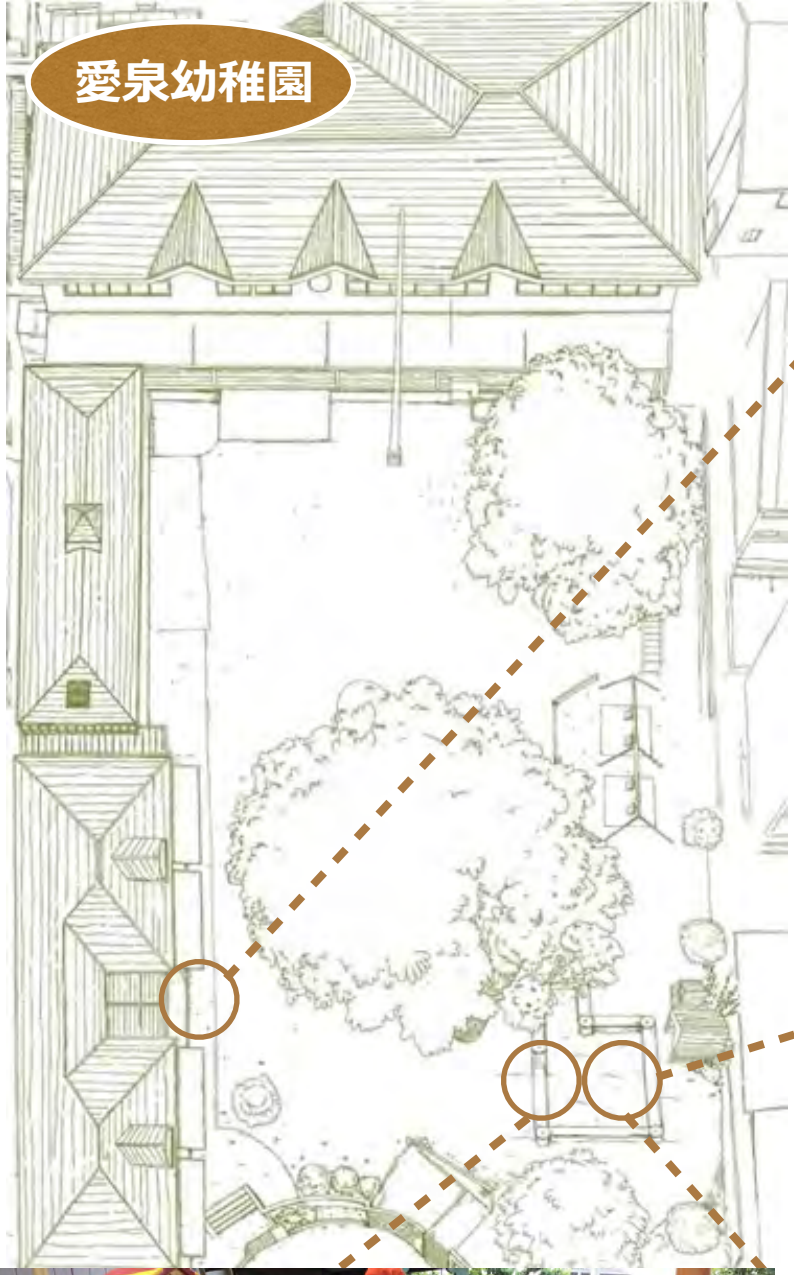
E：ホースの水を出したり止まったりする楽しさを、その場にいる子ども同士で共有している雰囲気が面白い

F：遊んでいるところに水が飛んでくる面白さを感じている

A：その場において水をコントロールできない立場の子は、水の勢いに押されると「やめて」としか言えなくなるのかも

研究会では、水を使うことで遊びや子どもたちの関係性に生まれる変化が語られていました。園により何を使って水を運ぶか（じょうろやバケツ・ホース・ポンプ）の環境や、水をどれくらいの量使うのかなどの考え方の違いや、水をどのように使うかによって、子ども同士のコミュニケーションや遊びの盛り上がり方が違うことが語られていました。

愛泉幼稚園



砂場の近くに水場がないため、ジョウロやバケツを使って運ばなくてはならない。ジョウロを三輪車に乗せて運ぶことも楽しんでいる。

水が溜まりにくい砂場であるため、大量に一気に流し込むことが慣例である。砂場遊びに水は欠かせないツールである。

砂場の枠をカウンターがわりにして、ごっこ遊びが盛んに行われる。枠の内側がお店で外側はお客さん、関係性が面白い。

雨樋、バケツ、シャベル、型抜き、コテなどなど。遊びを広げるために道具の活用は欠かせない。何をつかうか自分できめる。

<コメント> 園の保育方針として、自然との関わりや不思議・発見を楽しむことを掲げていることから、砂場での遊びも制限することはなく、水を使うこと、道具を使うことも含め子供達がやりたいことを楽しめるように環境を提供してきた。また、主体的に遊べるよう保育者はできる限り見守ることを基本とし、子供同士が交わり、繋がり合える関係性を大切にしている。

<エピソード> ある日、雨樋と縦に裂いて半円にした竹をつなげて、7mほどのスライダーをつくりジョウロで水を流して遊んでいた。筒に水を流す子とつかまえたカエルを流す子がいた。水と一緒に勢いよく流れるカエルを見て「ちょう、こうそくだ！」と喜ぶ。その後もカエルは何度もスライダーを滑り降りることになった。

○砂場付近のおもちゃ

・スコップ ・シャベル・じょうろ
・やかん・バケツ（大小様々） ・寿司桶
・ふるい・型抜き・お皿 ・お椀
・木ごて ・熊手 ・ろうと
・舟や車、水車のおもちゃ・樋
・エンビ管 ・竹 ・洗濯ホース
【保育中は常時配置　※樋の使用は季節による】

水道と砂場が近くにありますが、その橋渡しの竹や樋は、直接届かない長さになっています。なぜか毎年、違う方法が編み出されるのが楽しいです。

園庭にはプランター、地植え問わず、様々な草花を出来るだけ植えたいと思っています。季節を感じるだけでなく、遊びに使って欲しいのです。

砂遊びは園庭そこかしこで繰り広げられます。雨風の当たり具合で砂の調子が違ったり、景色や広さが変わることで、その時その場所でしか出来ない遊びがあるのでしょう。

○地域からの「お古」の玩具

幼稚園付近の地域の方やお寺から、古くなって捨てるはずのものをよく頂きます。そのため、砂場のおもちゃとして塗りのお椀や桶があり、子どもたちにはさら粉(細かい砂)や石英の粒等の入れ物として人気があります。もともと生活に使われていたものだけに、“貰い物のおもちゃ”はごっこ遊びで普段の生活やお店を連想させるのにぴったりで、入れ物として様々な役割を果たしています。

○水もお花も“ええ加減”に

砂場の近くには水場があり、水道はいつでも使えます。樋や竹、ホースをうまく繋げば延々水が砂場に供給される水路も作れます。砂場は水を使うことで一層面白くなるので特に止めませんが、問題はどの辺から「もったいない」を意識させるか。それは、遊んでいる子どもたちと、当事者の先生しかわかりません。園庭のお花を摘むのも同じです。その時々に応じて、「面白い」と「もったいない」のジレンマを抱えながら、より面白い遊びを追求していきます。

かえで幼稚園

大きな砂場の傍には手動ポンプが。
砂場で水を使うには水路を作る必要がある。

水を使ったダイナミックな遊び。
ポンプを使えば水量も多くなる。

大きな砂場で使われる道具には、
本格的な金属製のスコップもある。

新設の小さい砂場。満3歳用に、と作ったが、
大きい子たちが一休みする姿も。

どろだんご場はしばしば「溜まり場」になる。
作りながら会話も楽しむ。

砂や用具を持ち込んで、
砂場以外でも砂遊びを楽しんでいる。

共有と共鳴

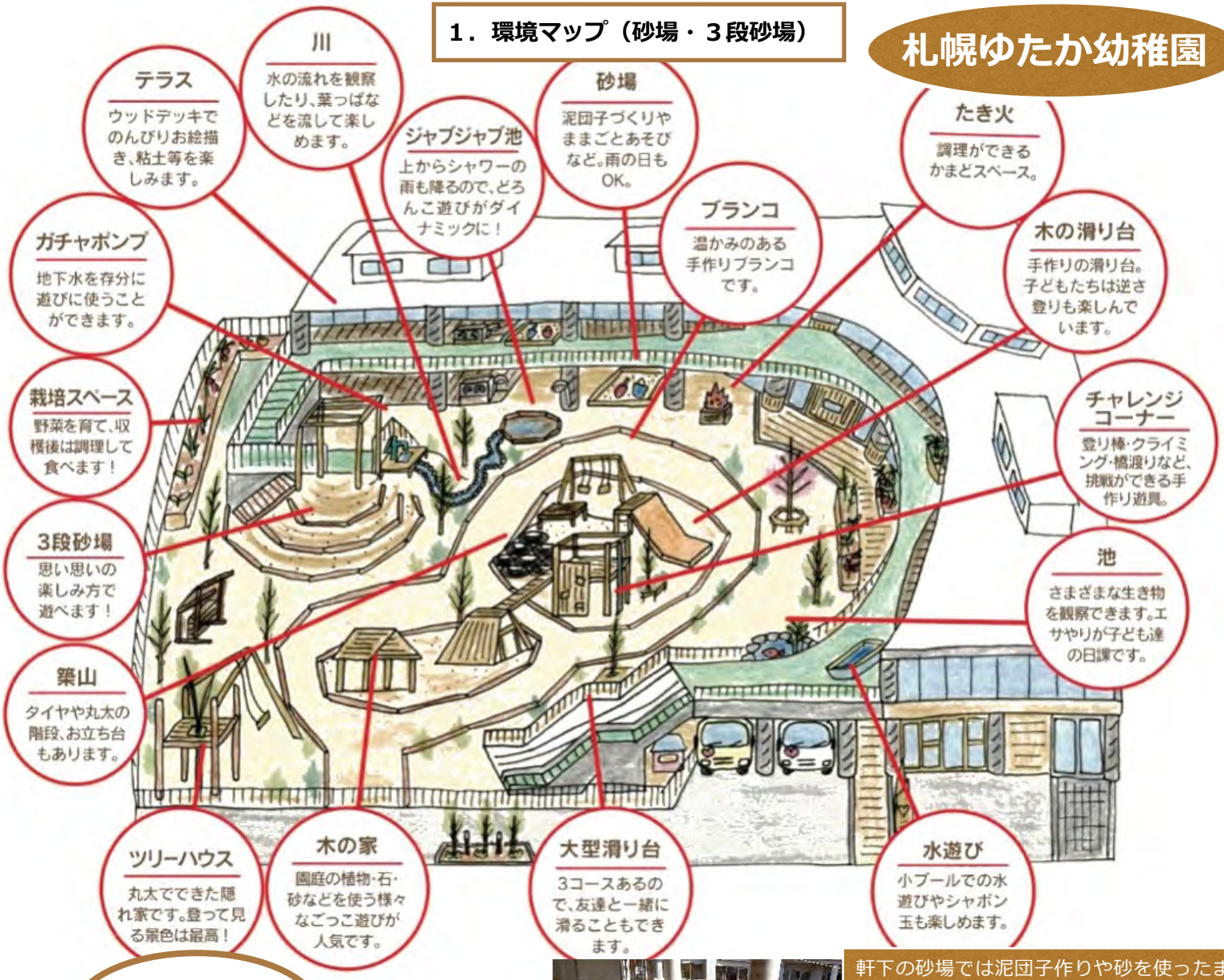
年長の子たちが砂場に山を作り山頂に池を掘り、そこに水を流している。ポンプや水路や池の大きさを調節しながら、池から水があふれそうになるギリギリを見極める高度な遊びを楽しんでいる。だが、あふれそうになるたびに歓声を上げるのは彼らばかりではない。周りにいる年下の子たちも同じタイミングで「キャー」「ワー」と声を出す。

このとき周りの子たちは年長の子たちの細かな調節を繰り返すこの遊びの意味を理解しているようには見えない。だが、歓声は同時に起こる。遊びのイメージの「共有」がみんなにできているとは思えないのに、みんなの声は「共鳴」している。変化する水や砂に呼応してみんなで楽しんでいる。

こうした懐の広さが砂場の魅力であるように思う。一部の子たちが高度な構造を楽しむと同時に、周りの子たちが遊びの意味や構造を理解していなくても一緒に歓声をあげて楽しんでいる。こうした細かさとおおらかさの共存が砂場の魅力であるように思う。

札幌ゆたか幼稚園

1．環境マップ（砂場・３段砂場）



3段砂場の段差を利用し、樋を使って水を流して遊んでいた。近くにあるガチャポンプからジョウロ等を使って水を運び、声を掛け合いながら水を流すタイミングを見計らっていた。

軒下の砂場では泥団子作りや砂を使ったままごと遊びを行っている様子が見られる。2階テラスの一角にあるため、他の遊びと混在せず落ち着いて遊びに没頭している様子がある。

砂場以外の場所でも「砂遊び」が繰り広げられる様子はよく見られる光景。この写真は泥団子作りの仕上げに必要な砂を探した結果、滑り台下の場所に辿り着き、採取している場面です。

2．遊びの環境のコンセプト

子ども達の遊びが充実するために「新たな発見に出会えること」「ワクワク・ドキドキ感の中で興味関心が広がること」「じっくり遊び込む中で満足感を得ること」を大切にしています。また、安心感を抱きながら、自分らしく思い思いに過ごすことが出来るように“しかけ（＝居場所）”を構成し、「ヒト・モノ・コト」に思いを巡らせる経験を通して非認知能力を育みます。

3．砂場の特徴

園庭全体に土・砂が入り交ざっているため、基本的に何処の場所でも砂遊びが繰り広げられていますが、その中でも枠を設けている砂場は3ヶ所あり、その内2ヶ所は雨の日でも遊べる軒下の砂場で、3～5人位の人数で落ち着いてじっくりと泥団子作り等を楽しむことが出来ます。もう1ヶ所の砂場は高低差のある3段砂場になっており、5～8人位の人数でダイナミックな遊びが展開されることもあります。また、各砂場の近くには水場と道具置き場があり、砂との組み合わせによって創造力を働かせながら遊びを豊かにしていきます。